

特定非営利活動法人 自然文化誌研究会 会報誌

118号

2015年、今年もよろしくお願いします!!

年内の活動も無事に終了し、新年度を迎えました。大きな事故も無く、1 年を過ごすことができ、協力いただきました皆さまのご尽力に感謝です!!事務局のブログが更新頻度は遅いのですが・・・7 月より新しくなりました(本会のホームページから入ると見れます)。そして不手際があり、これまで5年間書き溜めた物は二度と見れなくなってしまいましたけど・・・これから新たに歴史を作ります~!!

活動報告 ■

<u>その1「冒険学校まふゆのキャンプ」報告 12.26~28(2:i43日)</u>

今年は雪が降らなかった小菅村、これが例年どおり。寒さを体験しながら村の文化に触れるキャンプになりました。参加者8名は全員男の子。焚火、餅つき、野鳥観察、星空観察、テント泊、小菅の湯、氷を取りになど、いろいろできました!!







<参加者の声>「自然を感じる」「寒い!」 小菅についたとき、予想をはるかに上まわる寒さだった。ぼくは今まで春と夏のキャンプにしか行ってなかったからまさかこれまでとは思ってもいなかった。

夜、みんなのホクホクのカレーから湯気が激しく出ている。みんなと食べて心も体も芯から温まった。その後、星を見に行ったら、寒さはもっと増す。けれども空にうつる星の海は寒さをわすれさせる美しさだった。

川の石に氷がはりついている。とってみるとやっぱりつめたい。氷とふれ合って寒さを感じた。

この3日間でたくさんの自然とふれ合い、たくさんの寒さ、たくさんの自然を感じることができた。そんなすばらしい自然に一言。

「サンキュー!」

山住進悟くん 小学校6年生







その2 のびと講座「星空観望会」

12.13~14(1泊2日)

今年は普通に「ふたご座流星群」を観望会、夜半には 月が上がってくるため、夕食後の 19 時ごろの早めに、 小菅村の小永田地区の浅間様(せんげんさま)まで、車 で行きます。GW の「冒険学校むらまつりキャンプ」に参 加した事のある人なら知っている、5 月 5 日の最終日に 神代神楽を奉納する舞台のあるところです、翔くんや甲 斐くんが踊っているところですよ。11 月に松姫トンネル が開通した関係で、翌日からは夜間通行止めになって しまうので、「まふゆのキャンプ」では、役場の上にある ヘリポートで星空観察かなぁ・・・。キャンプ場の囲炉裏 で夕食を取りながら、事前の勉強会を行います。今回の 参加者は、昨年も参加してくれた小山高専の男の子た ち、まーしー、お一のちゃん。講師は中込ミさんした。



鈴木風馬くんもかなり詳しかったので、この時点で「ま ふゆのキャンプ」の星空講師に任命されていました。

観望中に、小菅村の「村コン」の参加者と出会ったの も面白かった!! (事務局)

その3「第34回環境学習セミナー」

小管村 11.9



「第 34 回環境学習セミナー」を小菅村にて開催しました。これまでは「環境教育セミナー」でしたが、「環境学習セミナー」に少々の名称変更して継続していきます。今回のテーマは、「都市民が学ぶ山村の伝統的知識~トランジッション・タウンと山村をつなぐ雑穀街道~」。トランジッション・タウンの先進地である神奈川県藤野町(正式には相模原市緑区藤野町)より、事例報告をいただきま

した。他にも、上野原市西原地区での地産品振興の取り組み、新潟県の南魚沼での活動、小菅村の雑穀の商品開発など、報告は多岐に渡りました。



終了後は、小菅村の方々と参加された皆さまとの懇 親会を行うこともできました。今年度も「環境学習セミナー」を継続していきます。 (事務局)









「タイ環境学習キャンス」旅行記 東京経済大学4年/学芸大学サークルちえのわ 柴山真さん

8月9日から16日まで、タイ環境教育キャンプに参加、その旅行記ということでタイでの思い出や環境教育キャンプで得たことなど、思いつく限り書いていきたいと思います。まず今回、このキャンプに参加しようとした動機ですが、私は大学のゼミでフェアトレードについて勉強しています。フェアトレードとは、発展途上国で中間搾取などによって生活が厳しくなっているカカオやコーヒーの生産者をチャリティーではなく、生産者が自立できるような経済的仕組みで支援しようとするシステムのことを言います。募金を集めて途上国に寄付をするような支援の形では、継続して行うことが難しいですし、途上国は援助金を受け取るだけだといつまでも自立した生活ができない、一過性の支援に終わらないフェアトレードに興味を持って学んでいました。フェアトレードの勉強も、参加者時代から10年以上にわたってお世話になっているサークルちえのわも、活動の根本は「国内・海外問わず、子どもたちが学校に通えて、誰一人疎外されることなく、家族の愛情に育まれながら成長できる社会にするためにどのような活動ができるか」という自分への問いがありました。今回、フェアトレードのスタディーツアーを探していましたが、子どもたちが育つ環境は、日本に限らず世界ではどうあるのかの生身で知りたいということ、そしてサークルちえのわの活動において環境教育の活動をしているということからこれからの活動に活かせればという思いから参加を決めました。







タイ環境教育キャンプの参加者の皆さんは私とご家族で参加されていた中学生の咲ちゃんを除いて 6 人全員とも中込ミさん繋がりの教職員の方で、私から見れば大先輩の方ばかりでした。今回の旅では成田空港を出発して、タイのバンコクに到着、その後は世界遺産に登録されているファイ・カ・ケン野生生物保護区のあるウタイタニ県バンライを中心にまわり、最終日にバンコク市内観光をしました。

出発の日は台風が関西にまで迫っている中での出国となり、台風に向かって進む機内は日本を抜けるまでは大荒れの 天候でした。タイのスワンナプーム国際空港に到着後、空港から 1 時間ほどのところにあるバンコクのラジャバト大学、グラ ンドビューホテルで早速の激辛料理の洗礼を受けました。到着して休息を入れればすでに夕方だったのですぐに夕飯にな りましたが、ここではラジャバト大学の副学長の方との会食となり、基本的に全部おいしいのですが、やっぱりこのタイ独特 の辛さに慣れるのには時間がかかったのを覚えています。

翌日は朝早くからホテルを出発し、バンコクを後にして専用のバスでパンダキャンプを目指し始めました。出発前には、今回の旅で大変お世話になる若林さんと、奥さんであるエーさんと合流しました。若林さんは長年このタイ環境教育キャンプで現地引率を実施してくださっている方の一人で、バンコクに在住されて20年以上のホタル好きな研究者の方です。

行く道にはパナソニックの看板やファミマやセブン、イオンなどの日系企業の店舗や看板がそこら中にあり、タイ経済の中で日本の影響をかなり受けていることが実感できてとても驚きました(実際に店舗に置いてある品物は日本からの直輸入や、タイ人にアレンジした物など様々です)。途中休憩の道の駅のようなところで、川魚の唐揚げなどをいただいて、寄り道して東南アジアならではの古めかしい市場へ。地元の人たちが食べてそうな天然うなぎや干物、湯豆腐、豆類、中国から輸入したと思われる雑貨などなど雑多な感じがたまらない一日いても飽きない市場でした。さらに道を進み、視界が田園風景だけになってきた頃、ウタイタニ県のバンライに到着、すぐにパンダキャンプに到着、パンダキャンプにおられるご主人のシリポンさん、ボタンさん、高校生のダンくん、中学生のパンダちゃんにお会いしました。この日は移動だけで6時間以上かけて進んだため、とっても夕飯がおいしく感じました。パンダキャンプを管理しているファミリーフォレスト(近隣農民の方が主体)が

日本人向けにアレンジしてくださったタイ料理もとってもおいしかったです。

この日の夜は早速、ジャングルの自然観察へ。とってもホタルが美しいそうなので若林さんと共にパンダキャンプから更に奥地の山奥まで荷台に乗り込んで進みました。荷物は少なく、カメラと網とカゴだけで。バンコクの暑さから一転して寒いくらいのところでした。若林さんは得意分野でもあるホタルは、着いて暗い登山道を降りた先の川が見えた途端に目の色が変わりました。目の前にはチラチラ、日本とは違って煌々と光るホタルたちが見えたのです。幼虫を手にとっては小さすぎてカメラに写らず、ついに成虫を捕まえてすぐにパンダキャンプに帰りました。キャンプにはとれたてのバナナとコオロギらしきおつまみがあり、すぐに晩酌の運びとなりました。夜遅くには甲高い鳴き声が森中に響き渡り、シロアリに羽がついたものが泊まっていたログハウス近くに大量発生していました。虫が嫌いなわけではありませんが、大群がログハウスの中にまで浸食しそうで、恐怖を感じました(笑)。

そこで見たものはその羽アリをこれでもかとむさぼり食べていた「トッケイ」という、これまた30センチ近くはあるであろう赤、黄色の派手なトカゲでした。鳴き声のするトカゲは初めてみましたが、これまた南国サイズだなと思いました。そのトッケイが完璧すぎるくらいに全ての羽アリを食べてくれたおかげで、あれだけ大量発生していた羽アリもものの1時間できれいさっぱりいなくなりました。







翌朝もおいしく朝ご飯をいただきましたが、何よりフルーツが最高においしいのは今でも覚えています。バナナはもちろん、ドリアン、ロンコン、マンゴスチンなどなど、バンコクでいただくより新鮮でおいしいものを沢山いただきました。この日は環境教育のワークショップの日で、地元小学校に通う子どもたちや、地元のカレン族の皆さんをお呼びして、普段授業で教えてもらえない日本の理科実験をエーさん翻訳のもと、それぞれ担当を決めて行いました。1 時間目はまだ皆さん初対面と言うことで、アイスブレイク。担当はしばやまでした。

普段からちえのわや地元である武蔵野市の野外活動センターでいろいろなゲームは学んで頭に入れていたので、久しぶりに実践しました。でもここで実践することになるとは思いも寄りませんでした。午後は折り紙千羽鶴作りを使っての広島・長崎についての平和学習、じゃんけんゲームやバナナ・マンゴー・ドリアンを使ってフルーツバスケットを実施しました。参加者の咲ちゃんとも協力してうまくまとめられるか心配でしたが、みんな素直だったのでちゃんと動いてくれてよかったです。

この日の夜はダンくんとパンダちゃん、エーさんと参加者の皆さんでパンダキャンプから程近いバンライのお祭りに足を 運んでみました。屋台は日本とも似ていて懐かしい雰囲気もあれば、脂っこいこってりした料理や、絶対に中国から何か運 ばれてきた日本のキャラクター模倣の景品もあったりして、いろんな意味で絶対に日本では体験できない屋台でした。

翌日からはついにパンダキャンプから更に山奥で、世界遺産にも登録されている「ファイ・カ・ケン野生自然保護区」へ、シリポンさん、若林さんと共に向かいました。私たち一行は一応研究者として入らせていただけることになり、研究者のみ宿泊できる大変きれいなロッジに1泊2日で泊めさせていただけることになりました。タイの避暑地としても有名なところでもあり、夜間の気温は夏の軽井沢を思い出すほどの涼しさでした。

ファイ・カ・ケン野生自然保護区はバンコクから西へ 130km、ミャンマーとの国境地帯ともまたがる野生生物保護区群です。 東南アジア随一の自然保護区域のひとつで、多種多様な動物や植物が生息しています。また、タイの野生トラの生息地で もいますが、密猟の被害にも遭い数が減少しているため、厳重に保護されています。

到着後は国立公園のトップの方にお会いし、すぐに軽トラに乗車。トレッキングコースで自然観察になりました。巨大なアリ塚、巨大な竹の幹、シカの群れに圧巻になりつつも、最後に辿り着いた記念館。ここがタイの野生保護活動発祥の地とも

いわれるきっかけとなった、スープ・ナーカサティアンの記念館でした。世界遺産に登録されるきっかけとなった人で、タイで 初めて生物多様性を説いた方でもありました。記念館近くにはこの国立公園の全体ジオラマも展示されており、広大な土地 に数多くの動物が生息していることが見て取れました。山奥地ではトラはもちろん、水牛、アジアゾウなども生息しておりシリ ポンさんは「今回は厳しくとも次回はぜひみんなを連れていきたい」と意気込んでおられました。その後、夜は若林さん待望 のホタル観察へ。大変多くのホタルを観察できました。それと同時に辺りは真っ暗でトラが来ていないか周囲を確認しなが らの散策でした。

翌日はレンジャーの方と朝から野生のトラが生息するコミュニティ周辺のトレッキングコースを見て回りました。トラの数日前の足跡や糞の痕跡があるも、最後まで姿を現しませんでした。途中やっぱり激辛の昼食を取りながらも、タイと隣国ミャンマーとの激戦の地を訪れ、今回の旅で一番動物を見ることの出来たスポットに辿り着きました。「塩場」です。野生生物たちが人家に近づかないように、草原に穴を掘って公園の担当者が毎朝、塩をまきに行きます。その「塩場」で動物たちは塩分補給をし、人家に近づかない、そしてそこには野生生物たちが多く集まるというわけです。その草原には見晴台があり、マクジャクや、東南アジアでよく見られるというバンテンの群れに出会いました。バンテンの群れは子連れで、食事のために草原に現れたようですが、私たちが撮影を始めると少し警戒し始めたような様子で、その後に離れてしまいましたが、貴重な野生動物との出会いでした。観察にはもちろん一眼レフカメラも使用しましたが、レンジャーの方が持ってきて下さった大きな双眼鏡にデジカメをくっつけて撮影した結果、遥か遠くにいるバンテンの群れを至近距離にいるかのような写真を撮ることができました。夜は国立公園のレンジャーさんの車に乗させていただき、トラやゾウの群れを見に観察へ。日本では絶対に見かけないトラ注意、ゾウの群れ注意の看板がちらほら。深い森の中を駆け抜けていく闇の中に光る眼を見たときはすぐさま「ストップ・」と声がけ、遠くに見えたネマネコに感動しました。シリポンさんも興奮気味に。観察に酔いしれる日々はここで終わりました。







翌日、パンダキャンプに戻りボタンさんたちと久しぶりに再会。そこで私たちが国立公園へ出かけている間、娘さんのパンダちゃんの学校へ体験入学していた咲ちゃんが、タイの学校での出来事を語ってくれました。咲ちゃんの話を聞いて、また子どもたちとふれあえる機会ができたらと思い立ち、ボタンさんに直接「できたら明日だけ、一日体験入学させて欲しい」と頼み込んだところ、ダンくんの通っているバンライウィッタヤー中学校・高校に午前中だけ登校できることが決まりました。その日は興奮で眠れなかったのを今でも覚えています。翌日は、カレン族の皆さんの農業について見学させていただく予定ですが、自分だけ特別プログラム編成となりました。翌日、学校に到着し、宗教の時間後の朝の会で全校生徒と先生約 1000人に向かって英語で自己紹介するというかなりチャレンジングなことをしましたが、その後は温かく生徒のみんなが迎えてくれました。久しぶりに転校生になったときの感覚を味わいました。

その後は、全部タイ語の授業で難易度が高すぎましたが、日本から持ってきた地図や、タイ語の旅行本、スマホに入れてた雪とか桜の写真を見せたときはクラス中から歓声が上がりました。数学の授業は全てパワーポイントで「タイ語で因数分解ってそういうのか」、という発見があったり、中国語の授業では、唯一漢字が完璧に書ける名人として、黒板でお手本したり、日本語の授業をやってみたり、逆にタイ語のクイズを出題されたりと熱い教室の中は更に熱気に包まれました。異文化だからこそ味わえる感動というものをそこで初めて実感し、そして英語がほとんどできない自分を悔やみました。これだけ英語で世界を拓けることを知ったのは遅かったかどうかはわかりませんが、もっと地元の子どもたちや先生ともコミュニケーションを取りたいと強く思いながらも、たくさんの感動ともやもやを抱えた体験入学で、本当に刺激的でした。(次号につづく)

活動案内

『第 11 回 NPO法人 自然文化誌研究会 通常総会』のご案内

2004年に東京都の認証を受けてから、第 11 回目の総会を行います。正会員の皆様はぜひご出席く ださい。また出欠を同封のハガキでお知らせ下さい。このハガキは欠席の場合は委任状となっております。 ご意見などもお気軽にお寄せください。なお、正会員以外の会員の皆様もオブザーバー参加が可能で す。

日時: 2015 年 2 月 21 日(土) 15:00 開始~16:30 終了予定

場所: 小菅村 植物と人々の博物館(小菅村中央公民館)

- *自家用車でお越しいただくか、JR 奥多摩駅から西東京バス「小菅行き」に乗り、「小菅村役場前」で下車。
- *詳細は事務局まで電話かメールにてお尋ね下さい。

議題: ①2014 年活動報告 ②2014 年収支報告 ③2015 年活動計画

④2015 年収支予算 ⑤理事の選任 ⑥その他

よろしくお願いいたします。

正会員の皆さまには、出欠・委任状のハガキを送らせていただきました。出欠席をぜひ、事務局まで教えてくださいませ!!

その1 のびと講座「小菅村での味噌づくり」3.14~15(1泊2日)

毎年恒例、手づくりの味噌づくりです。小菅村の 大豆を煮るところからはじめて、杵で搗いて大豆を すり潰していく、昔ながらの味噌づくりを行います。 麹は、はるちゃんの実家の手づくりの麹です。1 泊 2日ゆっくりと昔からの味噌づくりをしませんか? みんなで仕込んだ味噌は、1年ほど寝かして完成 した後に、参加者の皆様にお届けします。

昨年好評だった、そば打ち、こんにゃくづくりも 行いますよ~。



2 日目が本番。臼と杵で大豆をすり潰し続けます。 *参加希望者は、ハガキかE-mailに住所・氏名・ 年齢(学年)・性別・電話番号を記入の上、3月9日(月)

までに事務局まで参加をお伝えください。

日 程:2015年3月14日(土)~15日(日)

場所:小菅村のキャンプ場か民家

宿 泊:ログハウスで寝袋でみんなで寝ます。

※宿泊施設ご希望の方はご相談ください。

定 昌: 15名

参加費:会員:6,000円 非会員:9,000円 (材料費、宿泊、食費、保険代が含まれています)



そば打ち、こんにゃくづくりを守屋アキ子さんに教わります~。

その2 のびと講座「野草の天ぷらとお茶つみの会」 4.29(日帰り)

毎年恒例の「野草の天ぷらとお茶つみ」のデイキャンプをやります。普段は「葉っぱ」「雑草」として見落としがちな野草でも食べられるものがたくさんあります。野草を摘んで、天ぷらにして食べましょう。また、自分たちでお茶をつみ、蒸して、揉んで、飲みましょう。樹木医の岩谷美苗さんによる恒例の「キノコ探し」もメニューに予定しています。フランス料理の高級食材「モリーユ」が見つかるかも?

雨天決行です。友人・知人を誘ってぜひご参加下さい。





日 時:2015年4月29日(祝)9:30~15:00

場 所:東京学芸大学 環境教育実践施設(農場)

対 象:どなたでもご参加ください♪

参加費:中学生以下:300円 高校生以上:500円

* 当日参加 OK です。事前申し込みは不要です。

*雨天決行です。

- * 昼食は持参でお願いします(テンプラをするのでおにぎりなど。)。
- * 余裕のある方は 9 時ぐらいに来て準備を手伝ってくださると嬉しいです(^^)
- ←農場で採れたたくさんの野草!この後、天ぷらです。
- ←お茶も朝からみんなで揉みます~。

その3 冒険学校「むらまつりキャンプ」 5.3~5.5(2泊3日)

新緑がまぶしい、多摩川源流の小菅村で2泊3日のキャンプを行います。清流での川遊び、焚き火、山菜採り、テント泊、 ご飯づくり、五右衛門風呂、お祭りの見学などなど、多くのプログラムを準備しております。

小菅村の「第 28 回多摩源流まつり」も開催されます! 夜は、日本一のお松焼きと、山に響きわたる花火大会も見に行きます! ご家族での参加も可能な、ゆったりとしたキャンプですよ~!!



お祭りを手伝いに行きますよ~。

日程:2015年5月3~5日(2泊3日) 場所:小菅村のいつものキャンプ場

対象:子どもだけの場合は小学校3年生~中学校3年生

親子参加の方は幼児も OK ですよ。

宿 泊:テント泊、ログハウスでの寝袋です。

参加費:食費・宿泊費・保険代・教材費を含みます。 ①会員:子どもひとり ¥20,000 非会員 22,000 円 ②会員:親子一組 ¥30,000 非会員 36,000 円



村の先生に山菜について教わります。

※先着順で25人の定員です、お早めにどうぞ!!

※これ以外の組み合わせの時は、ご相談いたします。

※会員になると、今回から会員料金で参加できます。

*参加希望者は、ハガキ・もしくはE-mailに住所・氏名 (ふりがな)・年齢(学年)・性別・電話番号を記入の上、4月 13日(月)までに事務局までをお申し込みください。

『INCH の楽しい仲間たち』 vol.7 その2

『冒険探検粉塵記

第2話 消えない罪と罰』

駄作者:文福洞先斗

連載を始めるに当たり、お断りしておきます。この冒険探検粉塵記 はうらない作家、文福洞先斗の私小説風、虚実綯交ぜになったフィ クションです。いたって誠実な半生の面白悲しさの真実を綴ります。

御器所小学校では教室の床の隙間から、お小遣いや 鉛筆などが落ちてしまうのです。このため木造校舎の 縁の下に潜って、5 円や 10 円玉を探索しました。5 円 あればコロッケが 1 個買えるのです。10 円あればお好 み焼きが食べられるのです。もちろん先生にいい子ぶって届はしませんでした。でも、こんな僥倖は6年間に1回もあったかどうか。しかし、この罪はいまだに許されず、その後1円たりとも見つけたら、自分の財布に入れないで、寄附箱に入れるようにしています。さらに、桜山中学校以降は、友人たちと花をバス停に活けるなど、ボランティア活動や途上国への寄附に、お小遣いや給料の一部を使い、ついには東京で家が建つほどの出費をすることになり、大変な罰を受けてしまいました。

2B 弾で毛虫を虐殺し、かんしゃく玉地雷を石の下に置きました。セルロイド製下敷きを細かく切って、アルミ製キャップに詰めて、ロッケトを作りました。釘ナイフは、今は無き市電に釘を轢いてもらい、コンクリートで研いで作りました。校舎は大方木造2階でしたが、6年生は戦後建築された鉄筋3階に入れたのです。水風船爆弾を3階から落とした奴らもいました。ポンちゃんは憶病でしたが、恥ずかしくて言えないいたずらも数多くしました。こうした楽しい悪さは秘密裏に行っていたのですが、即、告げ口する奴もいて、校長に朝礼で叱られて、なにもかも禁止されてしまいました。この罪も許されることなく、やはり大変な罪滅ぼしをしました。生物多様性保全や環境保全のために人生の時間を多く使うことになりました。

小学 5 年生の頃、学校花壇のチューリップ球根3個を勝手に拝領し、自分の花壇に植えました。親友の一人も共同正犯だったと思います。長ずるに及んで、帰省のたびに小学校の前を通ると、100倍にして返そ

うと思いましたが、いまだにできないでいます。なぜなら、友人のお父さんは多分、特別公務員であったし、本ちゃんも公務員になってしまったので、この罪は隠さざるを得ないのです。その後、ポンちゃんは真に潔癖に、どの様な状況であれ、取ったりしないようにました。しかし余談ですが、大学生の時は、知人がミカン畑でミカンを取って1っこ食べろとポンちゃんに放りました。不運なことに、畑には耕作者がいて、こっぴどく叱られました。「くれと言えばやるものを、なぜ無断で取るのだ」と、自分では決してしないことですが、この場合共同従犯になってしまいました。

そうだ、余談ついでに、韓国に行って、夢中になって畑で雑草を調査していたら、頭上には柿の木があったのです。「桃李に冠を正さず」ですが、やはりとがめられ、同伴の韓国学生が柿を取ろうとしていたのではないと弁明したら、「わかった、柿をやろう」と笑顔で言われました。アザドカシミールではうっかり夢中になって同じく草取りをしていたら、パキスタン軍に小銃でねらわれていました。

これらの罪業により、子どものため、学校のために、また、終生、小規模農家の一員としてたくさんのボランティア活動をしました。自分でも耕作していましたが、勤め先では学生や近隣住民によって何度もせっかく丹精した植物・作物が盗難にあいました。最近では、山里の畑で、猿にトウモロコシとカボチャをすっかり取られてしまいました。悔しいですが、これも贖罪でしょうか。写真は猿に食べつくされたトウモロコシ、および電気柵で囲まれた雑穀見本畑です。ポンちゃんの畑にもやっと簡易柵ができ、今冬の鹿の大麦食害は

を切らなかったの



『INCH の楽しい仲間たち』 vol.8

昨年は、小菅村でも大雪になりました。場所にもよりますが、120~140cmの積



月に小金井に大雪がふり

立」と報道された小菅村。そんな中で、心配して、電話をしてくれて、話したことが記事になりましたので掲載し ます。冒険学校に参加している、山田築くんが書いてくれました~!!

梨県小菅村のキャンプで作っ ました。ぼくは、大喜びで雪 のすべり台を作り、冬休み山

ったり、食べ物を分けあった

ているという事もしらせ

村の人同士で雪かきを手伝

ため、

道路が寸断されて食べ 遊びました。 しきたソリで何回もすべって そのころ、小菅村で大雪の

まったとニュースで聞きまし 物や灯油が届かなくなってし

くれました。

天ですか、ときいてみまし になったくろさわさんに大丈 んでいる、キャンプでお世話 心配になって、小菅村に住

が充分なくても他の物を使っ

に感動しました。物や食べ物

たのと、人々のたくましさ

ぼくは、それを聞いて安心

生活ができるんだなと、思い ある物を工夫してみると案外 その代わりにしたり、

すると、

かないといけないと思いまし に色々なじゅんびをしてお災害がいつ来ても大丈夫な

などと言われているけれど、

(はみな、 秋にとれたじ

陸の孤島

とでした。 油がなくなったらねこをだい ゃがいもを持っているし、灯 に村の人は、さわいでなく てねていればいいし、そんな 落ちついていると言うこ

<「市報こがねい」 平成26年8月号より>

実際に、小菅村は停電しなかったので落ち着いていました。仮に停電していても、生き延びることはできると思 います。小菅の湯駐車場をヘリポートにして、ドクターヘリは早めに準備されました(透析患者をはじめ)。





今後の活動予定のお知らせ(2015 年春)

第 11 回通常総会 @小菅村 植物と人々の博物館 2/21 3/14-15 のびと講座『小菅村での味噌づくり』 @小菅村

のびと講座『野草の天ぷらとお茶つみの会』 @東京学芸大学 環境教育研究センター 4/29

冒険学校『むらまつりキャンプ』『植物と人々の博物館 展示・縁側講座』 @小菅村 5/3-5

「第 17 回雑穀栽培講習会~雑穀の種まき」 @小菅村 5/9か10

※2月 21日の総会後に、年間予定が出ますので、よろしくお願いします。

○ 事務局より

●家が完成してホッとしました・・・が、ヒマが嬉しい訳ではない。常に前を向いて何かやっているという状態が 楽しいし、生きがいがある訳で、やはり突っ走る必要があるのだと実感しています。前に出るぞ!!

●新居に引っ越してはじめての冬は、とても快適でなんだか申し訳ない気持ちです。だって外は-5度なのに家の中 ではTシャツとかです。こんな快適ハウスにみなさま是非遊びに来てね。 はるこ

○ 事務局の麗しき日々

- •まーしー、おのちゃん、ご結婚おめでとうございます!!
- ・しずくとしぶや(料理長)は、大事な席に遅刻してきたもよう。
- その晩の深夜、大ちゃんの行動は・・・浜松町→渋谷を徒歩(スー ツで革靴で引き出物持っているのに) →山手線を 2 周しながら仮眠
- →シンポジウム会場の代々木のベンチで更に仮眠→シンポジウムへ。
- •まーしー、キャンプの薪割りで病院送りになったもよう(ダサッ!)
- ごめさんが骨折が長引き、松葉杖を手放せないもよう(ダサッ!)
- ・ひっしーは、酒が飲めなくなったもよう(かわいそ~)
- ・小林君は1月1日から独立して社長になったもよう(すげぇ~)。
- 風馬が自動車教習所に通っているもよう。
- ちえのわの卒業生は優秀でほとんど就職が決まったもよう。
- ・ 宮本さんが藤野町 (現相模原市) へ移住するもよう。

○ 自然文化誌**研究会 一緒**に活動しませんか?

略称 INCH(インチ)。 冒険・伝承・創造をキーワードに『国際的な視野で人間をとりまく自然と文化を野外において探求す る野外環境教育のパイオニア』として、30年以上にわたって活動を続けています。2004年から NPO として再出発し、活動の 中心を山梨県小菅村に移し、子どもを対象とした『冒険学校』や市民を対象とした『のびと講座』『ELF 環境学習中堅指導者 のびと研修会』などの山村の自然や文化を学ぶ活動を通じて、持続可能な社会を形成していく上で必須である環境学習の 実践と農山村の振興を実現させるため、エコミュージアムづくりを行っています。

本会の運営は会員の皆様のご協力と、会費で成り立っています。ぜひとも会員の輪を広げていき、納入をお願い致しま す。本会の趣旨に賛同いただける方なら、どなたでも会員になれます。会員には以下8つの種類があります。なお、正会員

のみが総会における議決権を持ちます。それ以外の会員は、 総会にオブザーバー参加となります。会費は年額(1~12月)で す。また、皆様からのご寄付も募っております。

正 会 員:10,000 円 一般会員:5,000 円

学生会員:3,000 円 賛助会員(個人・団体):10,000 円

家族会員:6,000 円 特別維持会員:100,000 円

植物と人々の博物館友の会会員:3.000円

小菅村特別会員:1 口 1,000 円から 郵便振替口座 : 00100-2-665768

口座名 : 特定非営利活動法人自然文化誌研究会



特定非営利活動法人 自然文化誌研究会 会報誌

<発行日>2015年1月18日

<編 集>自然文化誌研究会 事務局

<発 行>特定非営利活動法人

自然文化誌研究会

The Institute of Natural and Cultural History

次回「ナマステ 119 号は3月下旬の発行を予定しています。お楽しみに!!

<u>車数□></u> = 409-0211 山梨県北都留郡小菅村 3337-2

「u+zo-37-0165•090-3334-5328(事務局黒澤)

E-mail: npo-inch@wine.plala.or.jp

H P: http://www2.plala.or.jp/npo-inch/

事務局ブログ: http://npoinch.naturum.ne.jp/